

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	西片 公典
2-3	施策名	青少年の健全育成	関係課	生活環境課、社会福祉課、児童福祉課、健康推進課、学校教育課、教育指導課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度		
	市民(青少年とその保護者、地域住民)	①桜川市人口	見込値	人		37,653	37,269	36,885	36,500	35,897	
実績値						37,653					
②青少年人口			見込値	人		4,884	4,845	4,795	4,745	4,667	
						実績値	4,884	4,642			
		見込値									
						実績値					
		③こども見守りボランティア登録者数(R4から新規)	見込値	人			180.0	200.0	200.0	200.0	200.0
							実績値	187.0			
④「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数		見込値	店舗			110	112	115	117	120	
						実績値	110				
			見込値								
							実績値				
成果指標設定の考え方	心豊かにたくましく育っている成果指標については、①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合をアンケートにて調査。また、②各種体験活動への参加人数として、青少年対策事業等の体験活動の参加者人数を把握。③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数の把握。										
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の①桜川市人口は、毎年10月1日の常住人口。②青少年人口は、毎年4月1日の住民基本台帳による18歳未満の市民より求める。○①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は、市民アンケートより求める。②各種体験活動への参加人数は、市子ども会連合会における体験教室、わくわくチャレンジ、市民会議における各地区体験活動の実績より求める。③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数実績報告より求める。										

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は、令和3年度は58.1%だったが、令和4年度は51.1%と7.0ポイントの減少となった。令和4年度からは各種体験活動の参加者数を指標とし、468人の参加となった。同じく新規に指標とした子ども見守りボランティアの登録者数については、目標180名に対し187名と7名上回った。青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数は、令和3年度は、岩瀬地区42店、大和地区14店舗、真壁地区53店舗、計109店舗で昨年度と同数である。成果が向上した要因としては、令和2年度はコロナ禍の影響でほとんど活動できなかったが、令和3年度は新しい生活様式で活動が徐々に再開されたことが考えられる。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は目標値を2.9ポイント下回った。各種体験活動の参加者数は、468人の参加となった。子ども見守りボランティアの登録者数については、目標180名に対し187名と7名上回った。青少年の健全育成に協力する店登録店舗数については、令和3年度に目標値を下回っていたため、実績に合わせて今後5年間の目標を現実的な数値に見直したため目標と同数値となっている。心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は目標値を少し下回っているが、全体の実績としては概ね目標通りであり、引き続き事業を展開していく。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
<p>青少年の健全育成において、貢献度の高かった事業は下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども見守りボランティア設置事業…令和元年当時17名程度しかいなかったボランティアが現在187名とほぼ5年後の目標に近い数字となっている。地域が青少年の成長を支える仕組みが整ってきている。 わくわくチャレンジ推進事業…近年地域の人材を活用したわくわくチャレンジ事業で実施する体験型教室の参加者が非常に伸びており、地域が関わって子どもたちの成長を促す取り組みが継続的にできている。 地域学校協働活動事業…令和5年度から始まった事業であり、地域と学校をつなぎ、ともに取り組むことで子どもたちの成長を促す仕組みとして開始された。地域ボランティアが学校に関わることで、地域と学校が一体となった新たな取り組みが期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生会については、コロナによる制限が少なくなった今、会員を増やすことその他に、活動を本格化していく必要がある。高校生の自主的な活動による社会貢献の場や、魅力ある市づくり、郷土愛を育む活動などへの支援を図る。 学校警察連絡協議会運営助成事業では、総会や研修会後の部会等で話し合われる内容がマンネリ化しており、R4年度については特に会議欠席者が目立ったため、参加者が積極的に参加しやすくなるような内容を取り入れる、会議の在り方を変えられないか検討するなどし、活性化を図っていく必要がある。 <p>新型コロナウイルス感染症対策による制限が少なくなったことから、縮小していた事業を再度活性化させるなど、事業全体の見直しをしていくことが必要となる。しかしながら、すべてを元に戻すのではなく、この機会に効率よく実施できないか、事業内容やあり方が現在の状況にあっているかを確認し、より重点課題に取り組めるようなきっかけとする。</p>